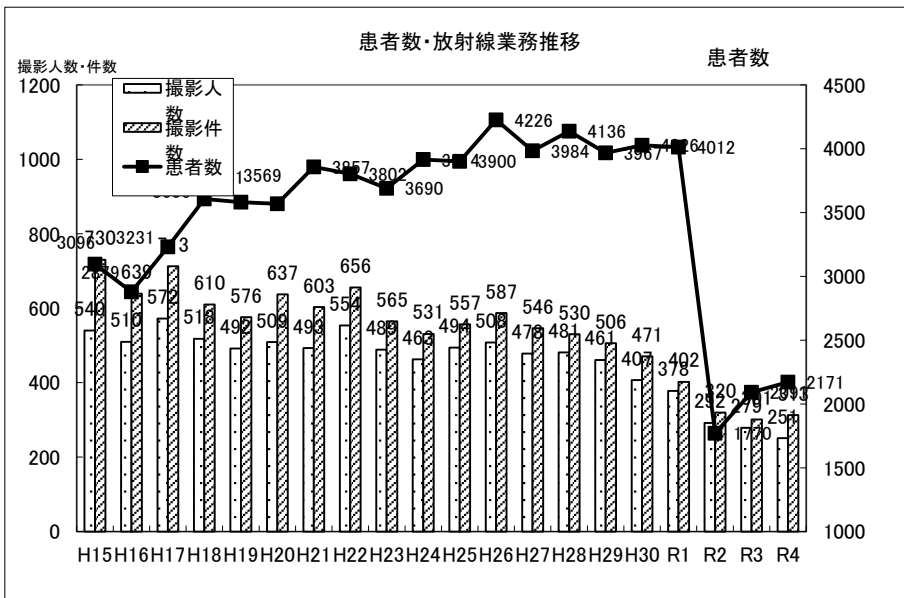


令和4年度 大野市休日急患診療所 放射線業務内訳

月	撮影人数計	内科	外科	小児科	検査件数計	胸部	腹部	頭部	脊椎	骨盤	肋骨	上肢	下肢	その他
4月	26	4	22	0	27	3	0	1	1	1	0	9	12	0
5月	41	7	34	0	42	6	1	2	1	1	1	12	17	1
6月	17	3	13	1	20	5	1	0	0	0	2	9	3	0
7月	22	3	19	0	25	4	1	1	2	2	1	8	6	0
8月	20	5	15	0	20	6	0	0	0	1	0	5	8	0
9月	18	3	13	2	21	6	1	1	2	0	2	6	1	2
10月	19	2	16	1	19	2	1	1	1	0	4	6	4	0
11月	20	1	19	0	21	3	0	0	1	1	0	5	10	1
12月	16	5	11	0	19	4	2	0	0	0	1	6	6	0
1月	24	6	18	0	25	5	1	0	1	3	2	8	5	0
2月	17	2	15	0	17	2	1	0	1	1	0	6	6	0
3月	11	0	11	0	57	1	0	2	2	0	1	1	50	0
計	251	41	206	4	313	47	9	8	12	10	14	81	128	4



放射線業務推移

	撮影人数	撮影件数	患者数
H15	540	730	3096
H16	510	639	2879
H17	572	713	3231
H18	518	610	3606
H19	492	576	3581
H20	509	637	3569
H21	493	603	3857
H22	554	656	3802
H23	489	565	3690
H24	463	531	3914
H25	494	557	3900
H26	508	587	4226
H27	478	546	3984
H28	481	530	4136
H29	461	506	3967
H30	407	471	4026
R1	378	402	4012
R2	292	320	1770
R3	279	301	2091
R4	251	313	2171

大野市休日急患診療所 撮影画像評価

2022年度 大野市休日急患診療所における年間撮影内訳 (2022年4月1日～2023年3月31日)

	撮影人数	胸部	腹部	頭部	脊椎	骨盤	四肢関節	その他	総件数
内科・小児科	45	47	9	8	12	10	209	18	313
外科	206								
合計	251								

評価フィルム内訳 42人(44件) 期間 2022年7月1日～2022年8月31日

	撮影人数	胸部	腹部	頭部	脊椎	骨盤	四肢関節	その他	総件数
内科・小児科	8	8	1	0	0	0	0	0	9
外科	34	2	0	1	2	3	27	0	35

表1 撮影フィルム評価分類(対象件数:62件 全141枚)

評価	A	B	C	D
読影	支障なし	ほぼ支障なし	支障あり	問題あり
診療	支障なし	支障なし	やや支障あり	支障あり
再撮	必要なし	必要なし	出来れば再撮	再撮
該当件数	31	10	0	3

※複数評価あり

表2 評価BCDの内容

	機器	手技	条件	処理
コードNO.	NO. 100代	NO. 200代	NO. 300代	NO. 400代
該当件数	0	12	0	2

※ 機器:自現機以外の機器調整不備 手技:不適切な撮影手技 条件:不適切な撮影条件
処理:階調の問題 取扱:不適切なフィルムの取り扱い

表3 内容詳細(重複あり)

101センターズレ				
102X線斜入				
103IP管理				
201ポジショニング不適		1		
202肺野欠け		1		
203肺尖欠け				
204横隔膜欠け				
205恥骨欠け				
210入射点不適				
220絞り過度				
221絞り不足				
230体動あり		1		
231呼吸ブレ				
242リス忘れ				
250着衣金具有				
252アロケタ位置不適				
253マーカ不適				
255マーカなし		9		
301S値不適				
402階調不良				2
Bの内訳	0	9	0	2
Cの内訳	0	0	0	0
Dの内訳	0	3	0	0

図1 撮影フィルム評価分類

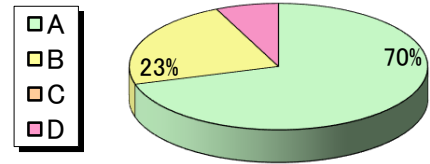


図2 BCDの内容・内訳

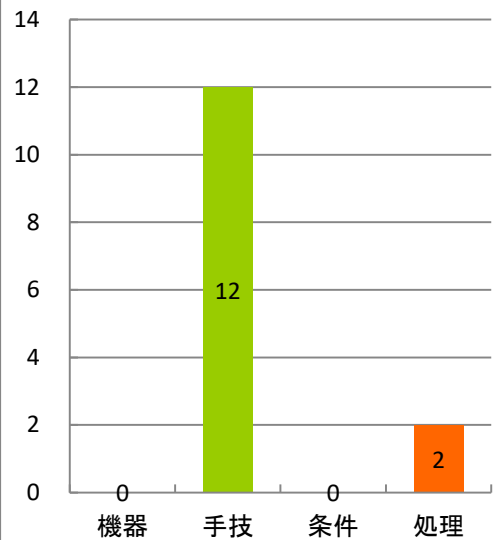
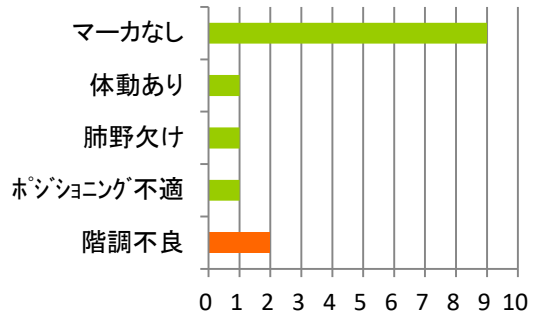


図3 内容詳細



結果

前年度に比べ、総撮影患者数は279名から251名に減少したが、総撮影件数は301件から313件へと増加した。

表1より 評価A31件、評価B10件、評価C0件、評価D3件であった。診断に支障をきたすような画像は3件であった。

表2表3より 評価Bの内訳として、手技によるもの9件、処理によるもの2件であった。評価Dは手技によるもの3件であった。

表3より マーカなしの画像が一番多かった。

考察

肺野欠け、体動あり、ポジショニング不適画像が1件ずつあった。不適切な画像を出さないよう、撮影後にはしっかり画像を確認して撮影を終了するよう心掛けていただきたい。必要時には再撮も考慮していただきたい。

階調不良の画像が2件あったため、撮影後、必要に応じて調整をしてから画像出力していただきたい。